

2022.4-6

資産運用状況
Quarterly Report

金属事業企業年金基金

用語の解説

- 修正総合利回り

資産の運用成果を評価する評価基準の一つで、簿価ベースの平均残高利回りである総合利回りの分母に前期末の評価損益および未収収益を加えることによってより時価に近い金額に修正した収益率。

計算式：修正総合利回り(%)=(実現損益+未収収益増減+評価損益増減)÷(元本平均残高+前期末未収収益+前期末評価損益)×100

- ベンチマーク

運用成果を評価する際に相対比較の対象となる基準指標のことをいい、市場の動きを代表する指標を用います。

国内債券・・・NOMURA-BPI総合

野村証券金融工学研究センターが算出・公表する日本の公募債券流通市場全体の投資収益指数で、1983年(昭和58年)12月末を100として指数化したもの。

国内株式・・・TOPIX(配当込み)

東京証券取引所が東証一部に上場する国内株の全銘柄の時価総額を基に算出する株価指数で、1968年(昭和43年)1月4日を100として算出したもの。

外国債券・・・FTSE世界国債インデックス(除く日本)

ロンドン証券取引所グループのFTSEラッセルが算出・公表する世界主要国の国債の投資収益指数で、1984年(昭和59年)12月末を100として算出したもの。

外国株式・・・MSCI-KOKUSAI

モルガン・スタンレー・キャピタル・インターナショナル社(MSCI Inc)が算出・公表する国際的な株価指数で、日本を除く先進国22カ国の上場企業の株価指数で構成。

2022年度第1四半期運用状況

2022年4月の内外株式市場は、米国で金融引締めが加速するとの観測が高まったことを背景に金利が上昇したことを受け下落しました。5月は、中国のコロナ規制緩和への期待の高まりなどを受け小幅に上昇しましたが、6月は、FRBがインフレ加速を受けて大幅利上げを決定したほか、ECBが11年ぶりの利上げに踏み切るなど、各国の中央銀行が続々と金利の引上げを決定したことを背景に世界的な景気減速懸念が広がったことで日経平均は一時2万6000円を下回り、NYダウも一時3万ドルを切るなど、内外株式は大きく下落しました。

一方、債券市場は、FRBをはじめ各国中央銀行による利上げペースの加速に対する警戒感の強まりを背景に、利回りは大幅に上昇（債券価格は大幅に下落）しました。

このように、第1四半期は株式・債券とも大変厳しい運用環境となりましたが、当基金では、本年1月のパッシブ資産のキャッシュ化後、運用の再開（資産の買戻し）を時間分散の観点から3回から4回に分けて行っており、これにより4～6月の市場の大幅下落による影響を一定程度抑制できたことでパッシブ資産の収益率は▲1.23%となりました。

なお、オルタナティブ資産のマルチアセットは、株式・債券など主要資産の大幅下落の影響で▲2.35%と苦戦が続き、この結果、当基金の第1四半期における資産全体の収益率は▲1.21%となりました。

	2021年度	2022年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度通期
収益率 (%)	3.10	-1.21				-1.21
収益額 (千円)	111,002	-48,524				-48,524
期末運用資産額(千円)	3,852,863	4,128,532				4,128,532

(注) 収益率は修正総合利回り。

1. 2022年度 第1四半期運用環境

【市場の動き（4月～6月）】

国内債券：4月の10年国債利回りは、米国で量的金融引締めが早期に進むとの見方から米長期金利が上昇し、これが国内に波及し0.22%に上昇しました。5月も、高インフレを背景に米欧の中央銀行が金融引締め姿勢を強める中、国内債券市場にも売りが波及し0.24%まで上昇しました。6月は、米欧各国が利上げペースを速める中、海外金利の上昇に連れられ一時日銀の長短金利操作の許容レンジの上限（0.25%）を超える0.26%まで上昇しましたが、日銀による指し値オペで低下に転じ、月末は0.23%で終わりました。

国内株式：4月は、米国の金融引締めペースの加速に対する警戒感や中国の都市封鎖の拡大・長期化への懸念から下落しました。5月は、株価の割安感が意識される中、上海が6月にロックダウンを解除するとの方針が伝わったことなど受け買い戻しの動きが加速しました。6月は、中旬以降高インフレを背景に米欧各国が利上げペースを加速させたことで米欧株式が大幅下落となったことを受け国内株式も大きく下落し、日経平均は2万6300円台後半で終わりました。

外国債券：米国10年国債利回りは、4月は、量的金融引締め実施による需給悪化懸念の高まりから2.34%から2.94%に上昇しました。5月は、金融引締めペースが加速するとの見方が強まったことで一時3.1%台まで上昇しましたが、中旬以降は、米国株式急落によるリスク回避姿勢の高まりから低下しました。6月は、米消費者物価指数が約40年ぶりの高い伸びとなり、FRBが利上げペースを加速するとの見方から一時3.4%台まで上昇しましたが、月後半は低下し、3.02%で終わりました。なお、為替はドル/円、ユーロ/円とも円安が進みプラス寄与となりました。

外国株式：米国株式は、4月は、FRBによる量的金融引締めや利上げペースの加速、中国の都市封鎖による需給減少や供給網の混乱が警戒されたことでNYダウは前月比-4.91%と下落しました。5月は、インフレ指標の伸び悩みから過度な金融引締めへの警戒感が一服したことで小幅に上昇しました。6月は、米消費者物価指数が約40年ぶりの高い伸びとなる中、FRBが0.75%の大幅利上げを実施し、利上げペース加速による先行きの景気後退リスクが意識されたことでNYダウは前月比-6.71%と大幅に下落し、月末は3万700ドル台で終わりました。

◇参考指標

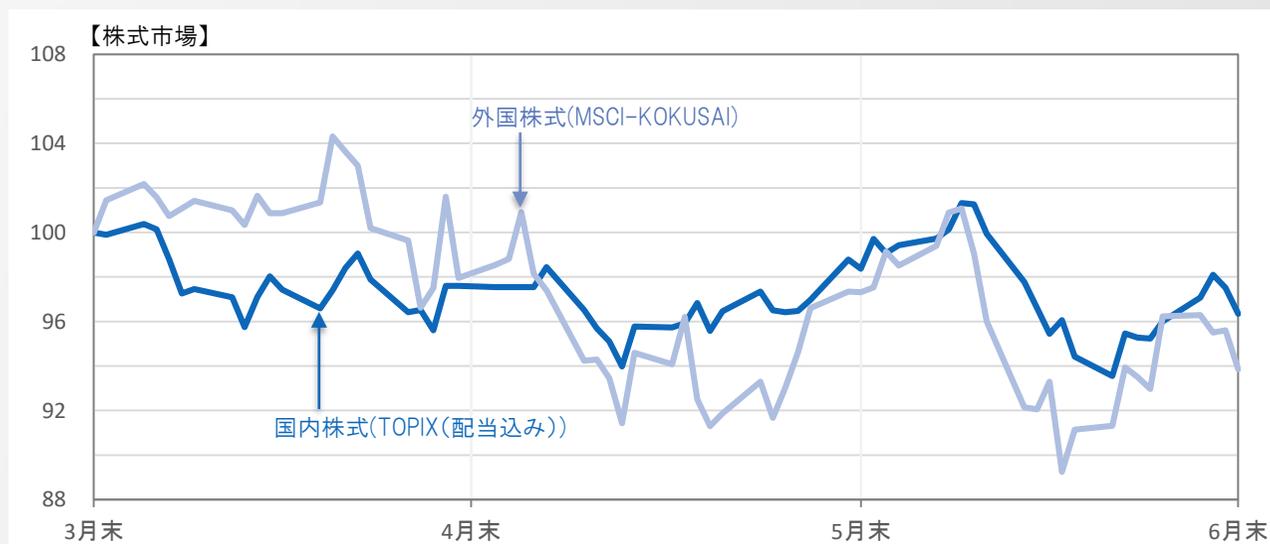
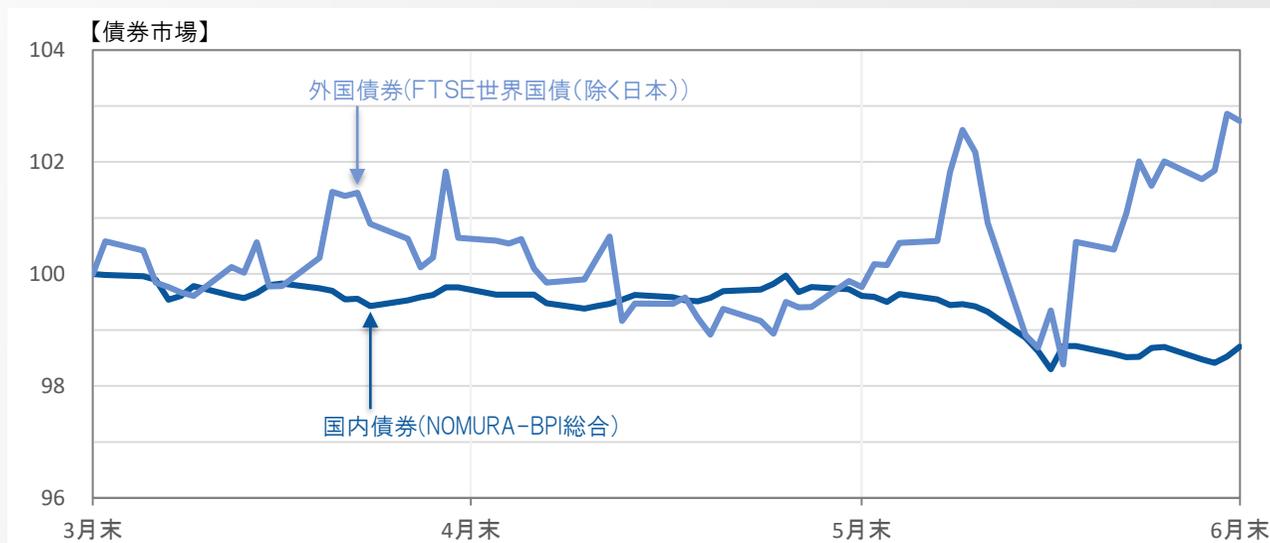
		2022年3月末	2022年4月末	2022年5月末	2022年6月末
国内債券	10年国債利回り (%)	0.21	0.22	0.24	0.23
	TOPIX配当込み (ポイント)	3,142.06	3,066.68	3,090.73	3,027.34
国内株式	日経平均株価 (円)	27,821.43	26,847.90	27,279.80	26,393.04
	米国10年国債利回り (%)	2.34	2.94	2.85	3.02
外国債券	ドイツ10年国債利回り (%)	0.55	0.94	1.12	1.34
	NYダウ (ドル)	34,678.35	32,977.21	32,990.12	30,775.43
外国株式	ドイツDAX (ポイント)	14,414.75	14,097.88	14,388.35	12,783.77
	ドル/円 (円)	121.38	129.56	128.65	135.86
為替	ユーロ/円 (円)	135.05	136.68	137.81	142.03

◇ベンチマーク収益率

	2022年4月～6月
国内債券 NOMURA-BPI総合	-1.30 %
国内株式 TOPIX(配当込み)	-3.65 %
外国債券 FTSE世界国債(除く日本)	2.73 % (-5.58 %)
外国株式 MSCI-KOKUSAI	-6.14 %

(注)FTSE世界国債の下段()内は、円ヘッジベースの収益率

市場ベンチマークの推移(2022年度 第1四半期) 2022年3月末=100とした市場の動き



2. ファンド別資産クラス別収益率・収益額の状況

(1) パッシブ資産

	2021年度	2022年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度通期
収益率(%)	3.52	-1.23				-1.23
国内債券	-0.31	-1.11				-1.11
国内株式	9.44	-1.31				-1.31
外国債券	3.15	3.80				3.80
ヘッジ外債	-1.14	-4.15				-4.15
外国株式	24.98	-4.62				-4.62
短期資産	0.21	-0.00				-0.00

	2021年度	2022年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度通期
収益額(千円)	111,828	-39,489				-39,489
国内債券	-348	-1,226				-1,226
国内株式	16,584	-2,322				-2,322
外国債券	3,469	5,900				5,900
ヘッジ外債	-14,900	-21,267				-21,267
外国株式	104,776	-20,501				-20,501
短期資産	2,247	-73				-73

(2) オルタナティブ資産

	2021年度	2022年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度通期
収益率(%)	-0.24	-2.35				-2.35
第一生命	0.81	-1.61				-1.61
りそな銀行	-1.00	-3.11				-3.11

	2021年度	2022年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度通期
収益額(千円)	-827	-9,533				-9,533
第一生命	1,184	-3,256				-3,256
りそな銀行	-2,011	-6,278				-6,278

(参考) 第一生命：マルチアセット（第2総合口），りそな銀行：マルチアセット（総合口N）

(3) 一般勘定

	2021年度	2022年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度通期
収益率(%)	—	0.12				0.12

	2021年度	2022年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度通期
収益額(千円)	—	499				499

(参考) 日本生命：ニッセイ一般勘定プラス

3. 運用資産額・構成割合

(1) パッシブ資産

	資産額 (千円)	構成割合	基本ポートフォリオ		乖離
			中心値	許容乖離幅	
国内債券	148,745	4.5%	5%	±2%	-0.5
国内株式	237,664	7.1%	8%	±2%	-0.9
外国債券	215,870	6.5%	5% (7%)	±2%	-0.5
ヘッジ外債	1,138,705	34.2%	59% (57%)	±4%	-22.8
外国株式	579,324	17.4%	20%	±4%	-2.6
短期資産	1,012,959	30.4%	3%	±3%	+27.4
合計	3,333,266	100.0%	100.0%		—

(注)上記数値は四捨五入のため、各数値の合算は合計値と必ずしも一致しません。
2022年度は、外国債券を5%から7%に、ヘッジ外債を59%から57%にウエイト調整しています。

(2) オルタナティブ資産

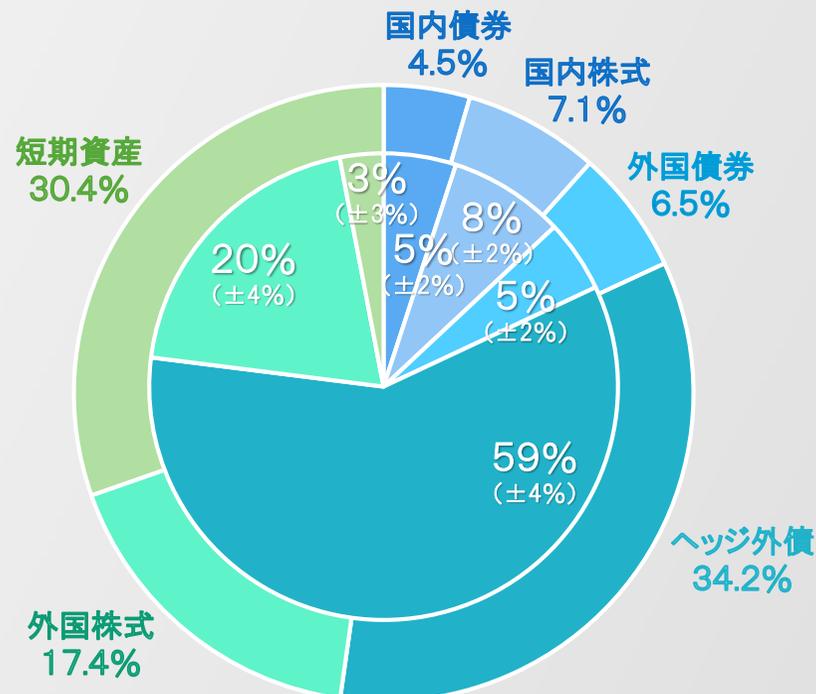
	資産額(千円)
第一生命	199,047
りそな銀行	195,730
合計	394,777

(3) 一般勘定

	資産額(千円)
日本生命	400,499

(4) 資産全体

	資産額(千円)
パッシブ資産	3,333,266
オルタナティブ資産	394,777
一般勘定	400,499
合計	4,128,542



内側:基本ポートフォリオ(カッコ内は乖離許容幅)
外側:2022年6月30日時点

※時間分散の観点からキャッシュ化後の運用再開を段階的に行っているため、第1四半期末の資産構成は基本ポートフォリオから一時的に乖離しています。